

國學院大學學術情報リポジトリ

國學院大學デジタル・ミュージアム「二十二社写真データベース」「一宮写真データベース」の創設

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000516

國學院大學デジタル・ミュージアム 「二十二社写真データベース」「一宮写真データベース」の創設

1. データベース作成の経緯

本データベースは、神社の画像コンテンツならびに関連情報をインターネット上にて発信・公開し、広く世界へ向けた日本文化と宗教文化に関する教育・普及の深化および研究教育に資するところを目的とするものである。

ここでの神社の画像コンテンツとは、社殿ほか各神社の景観を示したものをいう。また関連する神社の基本情報を日本語と英語により表示することで、日本文化・宗教文化、特に神社・神道に関する情報を国際的に発信し、その教育・普及の深化を図っている。

本データベース作成に至る経緯は、以下の通りである。2014年度に文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館支援事業」に、本学博物館を中心とした「東京・渋谷から日本の文化を発信するミュージアム連携事業」が採択された。同事業は、

- ①「多言語による日本文化の普及と集客力向上に向けたミュージアム連携事業」
- ②「日本文化と宗教文化への理解を深めた人材を育成するミュージアム連携事業」
- ③「日本文化を体験・実感するミュージアム連携事業」

の3つの事業から成る。そのうち②の事業の一環として、宗教文化に関する一般的な教養や日本文化に理解のある国際的・地域的人材の育成を目指して、「二十二社」を対象に現地調査を行い、「資料アーカイブによる教育・映像コンテンツ作成」に関わる一万点ほどの画像・映像コンテンツ素材を収集した。

翌2015年度には、文化庁「地域の核となる

美術館・歴史博物館支援事業」に、本学博物館を中心とした「東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業」が採択された。同事業は、前年度の事業の発展的な推進を目的としており、一層の「国際発信」や「多言語サービス」に力点が置かれた。

前事業での目的意識を継承し、事業の柱の一つである「博物館における多言語サービスの充実（多言語充実事業）」に関わる画像・映像収集のために、2015～2016年度にかけて、全国の「一宮」を中心的な対象として選定し、日本文化研究所のスタッフが中心となって現地調査を行い、画像等を収集した。日程・対象ほか各調査概要については、本年報8号～10号をご参照頂きたい。

こうした「資料アーカイブによる教育・映像コンテンツ作成」として収集された、「二十二社」の画像・映像コンテンツを国際的に発信・公開することが、本データベースの作成・公開の契機である。神社の写真データベースは「國學院大學デジタル・ミュージアム」〔<http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/DM/>〕（以降「DM」）上にて発信されることとなり、以来、DMワー



「二十二社写真データベース」トップ画面

キンググループ会議において、公開に向けての議論がなされていった。

2. データベースの内容と公開

「二十二社写真データベース」の作成・公開作業については、先述の連携事業を進める國學院大學博物館と、DMの運営を総合プロジェクトとして中心的に担う日本文化研究所とが、連携して進めることとなった。

写真データベースに掲載される画像コンテンツの選定ならびに、各神社の基本情報の整理・確認作業が慎重に進められた。

なお、データベースの英語名称は、直訳すると「Nijūnisha Photo Database」になるが、データ上の写真は「画像 (image)」のため、「Nijūnisha Image Collection」と決定した。
[URL <http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/bpd>]

【対象神社】

神宮 石清水八幡宮 賀茂別雷神社
賀茂御祖神社 松尾大社 平野神社
伏見稲荷大社 春日大社 大原野神社
大神神社 石上神宮 大和神社 廣瀬大社
龍田大社 住吉大社 日吉大社 梅宮大社
吉田神社 廣田神社 八坂神社 北野天満宮
丹生川上神社上社・中社・下社 貴船神社

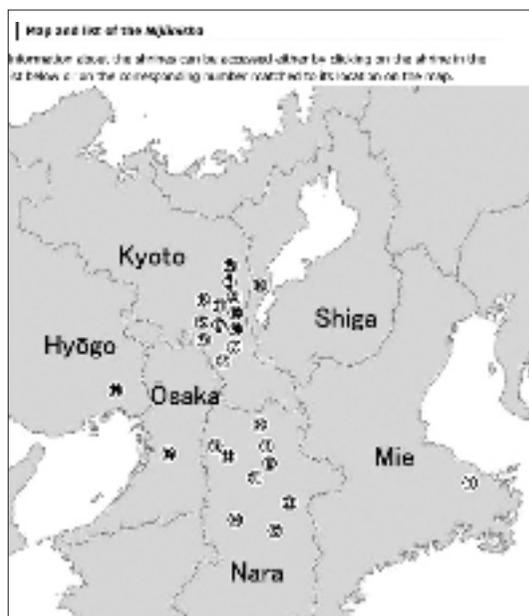
【基本情報】

神社/Jinja Name 神社名よみ
都道府県名/Prefecture
鎮座地/Location 緯度/経度/Lat/Lng
ホームページURL 祭神/Deity (ies)
由緒/History 備考/Notes

まず上記9項目が日本語で作成された。その後、基本情報が英訳され、日本文化研究所の外国人研究者の確認を経て、英語と日本語による表示に備えた。神社名が漢字表記のため日本語のみ「神社名よみ」があり、一方で、

由緒と備考は英語でのみの表示とした。

ところで、本データベースの中核・現地調査によって得られた画像・映像コンテンツは、研究教育に資するための本学博物館の学術資料であるが、その対象は現在も崇敬を受ける「神社」である。よって、礼拝対象であることに配慮し、各神社に趣旨を説明して理解・了承を得るとともに、掲載する画像・基本情報の確認を賜りながら作業を進めていった。



「Map, List and History of the Nijūnisha」画面

以上のように作成された各社のページへは、本データベースのトップ画面から個別にアクセスできる。また平安京（現、京都府京都市）と各神社との位置関係も重要であることから「Map and list of the Nijūnisha」を作成し、マップ上で位置関係を確認しながら各社のページにアクセスできるような工夫も試みた。

さらに、「History of the Nijūnisha」を掲載して「二十二社」の概要を示し、利便性の向上と掲載情報の深化を図った。

3. 利用条件の検討・設定

本データベースの特徴の一つに、利用条件

の設定・明示がある。本学DM上に掲載・公開される画像コンテンツ等の利用は、データベースごとに、個別の問い合わせが原則となる。他方、神社・神道についての教育・普及の深化という本データベースの目的を鑑みると、多くの国内外の教育関係者・研究者による利用が望ましい。そのためには、制約の少ない利用環境が求められる。

ところが前記の通り、現在も崇敬される「神社」が対象であって、神社ごとに画像利用への姿勢・公開状況に差異もあり、無制限での利用に供するのは難しい。こうした点から、一定の範囲内にて少ない制約での利用を可能とするため、新たに「利用にあたっての注意」(利用条件)を設定する必要が生じた。

利用条件の検討にあたっては、近年、各分野にて活用機会が増えているクリエイティブ・コモンズ (CC)・ライセンスを参照した。

ただし、同ライセンスでは営利・非営利の別しか利用目的を設定できないため、「研究・教育目的(刊行物を除く教材、学会・研究会の発表資料)に限り」という独自の利用条件を設けた。その上で、「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 (CC BY-NC-SA 4.0) ライセンス」に準拠して、

- 本データベースからの引用であると明示すること
- 研究・教育目的であっても非営利(非商業)の利用に限定されること
- 画像の改変(加工・変形等)を一切行わないこと

3つの利用条件を日本語・英語にて表示し、それらを順守の上であれば画像コンテンツが適宜利用可能である旨を端的に明示した。

本利用条件の設定は、研究・教育目的の下での制約の少ない利用を可能とするものであった。国際的に基準の一つとして普及しつつあるCCライセンスに準拠して策定し、一層の国内外の利用を促進した点に、本条件の大きな意義があると思われる。

4. 「一宮写真データベース」について

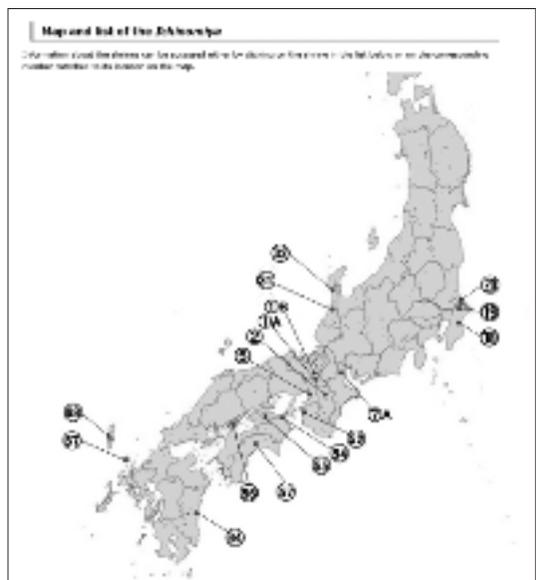
ミュージアム連携事業の成果として「二十二社写真データベース」は完成・公開されるに至る。その作成ノウハウの活用と本学博物館の多言語化サービス充実を目的に、続いて諸国一宮を対象に「Ichinomiya Image Collection」が作成されることとなった。

本データベースの構成・利用条件は、凡そ二十二社の様式を踏襲した。基本情報の項目も倣うが、「旧国名/province」のみ追加した。〔URL <http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/bic>〕

【対象神社】

玉前神社 香取神宮 鹿島神宮 白山比咩神社
気多大社 日前神宮・國懸神宮 大麻比古神社
田村神社 大山祇神社 土佐神社 都農神社
天手長男神社 海神社 椿大神社

※上記以外の一宮:賀茂別雷神社・賀茂御祖神社・大神神社・住吉大社は、二十二社データベース内のページをリンクにより案内している。



「Map, List and History of the Ichinomiya」画面

作成・公開に当たりご理解・ご協力を賜った関係神社各位に、改めて感謝申し上げたい。

(吉永博彰)